

第53回「ハートミーティング」意見交換の内容について

左京区役所プロジェクトチーム

★参加メンバーからの主な声

- 業務の枠を超え、一職員として何ができるか、どうあるべきかを考えるいいきっかけになった。今後も、所属・立場を超えた積極的な働きかけができるよう心掛けてきたい。
- 我々若手職員の緊張感を察知されてか、市長が場を和ますように話をしてくださったので、緊張感が取れ、よい活動報告ができた。
- 自分たちが一年間取り組んできた内容について、市長に関心を持っていただき、それぞれにお褒めの言葉をかけていただくとともに、様々な助言を頂戴することができた。今後の活動にしっかりと活かしていきたい。
- 職員同士が互いの優れた点に気付いて褒め合う環境づくりが大切だという市長の話が印象的だった。そのような職場づくりを進めていけるよう、今後も積極的に活動に取り組んでいきたい。
- 市民サービスの向上を図るには、まず、このプロジェクトを職員に浸透させていくことが大きなポイントだと改めて認識させられた。職員が自ら楽しんで参加できるような良い意味での気軽さやポジティブさを取り入れた方が、市民サービスの向上という結果に繋がりのやすいのではと思った。
- 今後は左京区役所から本庁に行政サービス向上のための取組を発信できるようにとの力強い言葉を市長からいただくことができ、ハートミーティングに参加することで貴重な経験をさせていただいた。
- 市長の考えをお聞きし、更に助言をいただけたことは、今後の業務において、京都市の一職員として業務に励み、より一層の市民サービス向上を目指していこうという何よりの励みになった。

- 当たり前かもしれない「挨拶」、「笑顔」、「親切的な声かけ」。そのような小さなことを意識して実践する。そういった個人レベルの積み重ねが、職員全体の意識の向上に繋がるのだと思った。

★市長からのコメント

- 左京区役所にも度々訪れるが、職員の対応が明るくなっていることを実感しており、また、「笑顔、親切、丁寧、テキパキ」が実践できていたという具体的な声も市民からいただいている。これも第一線の職員が頑張ってくれているおかげである。
- 区長に区民提案型、共汗型の予算権限を渡しているが、区民と一つになって左京区を良くしていくために、区役所の職員には政策立案能力と実行力を培ってもらいたい。そして、区役所から本庁を動かして行ってほしい。
- 区民の悩みや区の課題と同時に、区民の意欲や可能性、そして地域の強みも、全て第一線の区役所の職員が一番良く知っている。それぞれの担当業務を行いながらも、区民の力をどう引き出しながら左京区を良くしていくかを、常に考えてほしい。
- 外国人住民を対象とした英語版の業務案内リーフレット作成の取組は素晴らしいものである。是非対外的にも積極的にPRしてほしい。
- 市民対応の優れた事例や職員を選出する職員間投票は、区長や所属長が評価するのではなく、みんなで評価し合うという点が非常によく工夫されている。素晴らしい対応事例が職員間で共有されることは、まさに第一線の職員による真の改革につながるものである。